

認定遺伝カウンセラーの養成カリキュラム

認定遺伝カウンセラー®の養成にあたる基本的な目標は下記のとおりである。到達目標については、それぞれの目標レベルに応じた履修科目をリストアップし、その履修目標をまとめている。

(1) 一般目標 (GIO)

遺伝医療の現場において臨床遺伝専門医や他の医療スタッフと協力して相談に訪れたクライアント（来訪者）に臨床的で科学的な情報を提供し、クライアントが遺伝子診断、遺伝子治療を含む医療や生殖行動など日常生活の場において自らの意志によりこれらの情報を有効に活用して自分や家族のQOLを向上できるように援助するために必要な臨床遺伝学、カウンセリングに関する基本的な知識、技術、態度を学ぶ。

(2) 到達目標 (SBO)

1) 知識レベル：

人類遺伝学の基本知識、代表的な疾患の臨床像、自然歴、診断法、治療法に関する基本的知識を持ち、発生予防、医学的管理、社会的資源の活用法などを知っている。遺伝子診断の基礎を理解し、発見された遺伝子異常についてクライアントへの情報提供やカウンセリングをおこなうための基本的知識を修得している。認定遺伝カウンセラー®として活動するためにわが国の医療・福祉システムや制度、倫理および法的背景について必要な知識を修得している。

2) 技術レベル：

遺伝医療のニーズにあった家系情報を収集し、家系図にまとめることができる。クライアントが持つ問題の遺伝学的リスクを正しく推定できる。クライアントと好ましい人間関係をつくるためのコミュニケーション技術を持っている。クライアントに共感的理解と受容的態度を示しながら非指示的カウンセリングを行うことができる。クライアントの心理的課題に認定遺伝カウンセラー®の立場から介入でき、家族等周囲との人間関係を調整し、患者や家族のQOLを向上させるための指導技術を持っている。遺伝医学の最新情報、専門医療情報、社会資源情報、患者の支援団体情報を収集し、その情報をクライアント自身が活用できる形で提供したり、臨床遺伝専門医との連絡、専門医療機関や地域行政機関と連絡調整をおこない、クライアントが最良の遺伝医療を受けることができるよう調整する技術を持っている。専門職として常に最新の遺伝医学情報にアクセスしたり、臨床遺伝専門医とのミーティング、研修会への出席、学会活動など自己学習の手段を修得している。

3) 態度レベル：

認定遺伝カウンセラー®は遺伝医療を支える医療スタッフの一員であると同時に、医療技術を提供する主治医の立場からではなく、クライアントの側に立って最良の選択を行えるよう援助することが求められていることを自覚し、臨床遺伝専門医、主治医、他の医療・福祉スタッフとの間で好ましい人間関係を作り出すための調整技術と態度を身につけている。また、医療スタッフの一員として、ジュネーブ宣言とヘルシンキ宣言の主旨を遵守したうえ、クライアントの利益に深い配慮をはらいながら活動する態度を身につけている。クライアントに対してはカウンセリング・マインドを基本とし、社会通念や倫理規範にも十分に配慮しながら科学的なカウンセリングを行う態度を修得している。

認定遺伝カウンセラーの養成カリキュラム（詳細）

[1] 認定遺伝カウンセラー®としての専門研修を受ける前に下記の教科目については大学レベルの教育を受け、科目履修制度等を利用して単位取得しておくことを条件とする

a. 人間科学系科目

人間発達学、心理学（または臨床心理学、コミュニケーション学、カウンセリング論）、倫理学（または生命倫理学、看護倫理学）

b. 自然科学・医療系科目

生物学、化学（または一般化学、化学概論）、遺伝学（または人類遺伝学、分子遺伝学、生命科学）、統計学、医学概論（または医療概論、医療科学、看護概論）、公衆衛生学（または保健医療福祉論、基礎保健学）

[2] 履修科目とその到達目標

Ⅰ 遺伝カウンセリングの実践を支える専門的基礎知識

1. 人類遺伝学・遺伝医学

1) 遺伝学史

- ・現代遺伝学が辿った歴史的背景を理解している

2) 細胞遺伝学

- ・細胞分裂と染色体分離を理解し、説明できる
- ・染色体の基本構造を理解し、説明できる
- ・染色体異常の種類と発生機序について理解し、説明できる

- ・染色体分析法について理解し、説明できる
- 3) 分子遺伝学
- ・DNA・RNA・遺伝子の基本構造を理解し、説明できる
 - ・DNAの複製・修復について基本的事項を理解し、説明できる
 - ・遺伝子発現について基本的事項を理解し、説明できる
 - ・遺伝子変異および多型について基本的事項を理解し、説明できる
 - ・DNA診断・技術について基本的事項を理解し、説明できる
- 4) メンデル遺伝学
- ・染色体・遺伝子の知識をもとにメンデル遺伝学の基本法則を理解し、説明できる
- 5) 非メンデル遺伝
- ・多因子遺伝・細胞質遺伝を理解し、説明できる
 - ・非メンデル遺伝の一部を細胞遺伝学・分子遺伝学的に説明できる
- 6) 集団遺伝学と遺伝疫学、家系分析
- ・メンデル遺伝学を集団に応用し、遺伝子頻度、保因者頻度、罹患者頻度、突然変異率などのメンデル遺伝学の基本概念を説明できる
 - ・臨床遺伝学における集団遺伝学の重要性を理解できる
 - ・家系分析の基本を理解し、説明できる
 - ・遺伝様式を確認し遺伝子の伝わり方や発現について説明できる
- 7) 遺伝生化学
- ・生体内分子の機能と代謝について基本的事項を理解し、遺伝医学的に説明できる
- 8) 生殖・発生遺伝学
- ・生殖の機構を理解し、その異常を説明できる
 - ・発生の分子機構について基本的事項を理解し、説明できる
- 9) 体細胞遺伝学
- ・体細胞遺伝学について基本的事項を理解し、説明できる
- 10) 腫瘍遺伝学
- ・癌関連遺伝子を説明できる
 - ・腫瘍の発生機序を遺伝学的に説明できる
 - ・遺伝性腫瘍について説明できる
- 11) 免疫遺伝学
- ・免疫応答の遺伝について基本的事項を理解し、説明できる
 - ・血液型の種類と遺伝について理解し、説明できる
 - ・組織適合性ととの遺伝について説明できる

12) 遺伝医学・遺伝医療

- ・ 遺伝医療を実践するにあたり、臨床遺伝専門医と遺伝カウンセラーの専門的な役割を理解し、医療・保健・福祉システムとの効果的連携について説明できる。
- ・ 遺伝カウンセリングが対象とする主な疾患について、臨床像、疫学、診断法、治療、再発予防、ケアの基本事項について理解し、説明できる（メンデル遺伝病、多因子遺伝病、染色異常、ガン、生活習慣病）臨床遺伝学における遺伝学的異質性の診断の重要性を理解し、遺伝子診断の概略を説明できる
 - ・ 遺伝マーカースクリーニングの概略を理解し、説明できる
 - ・ 出生前医療（受精卵・出生前診断を含む）の基本的事項を理解し、説明できる
 - ・ 遺伝子治療の現状について理解し、説明できる
 - ・ わが国の遺伝医療システムについて理解し、説明できる
 - ・ ゲノム機能科学について現状と将来の展望について理解し、説明できる

2. カウンセリング理論と技法

- ・ カウンセリングの主要理論と技法を理解している
- ・ 人間発達理論やパーソナリティ理論の基本を理解し、主要な心理検査法を理解している
- ・ アセスメント面接法と行動観察法の基本を理解している
- ・ 主要な精神科的疾患の臨床的特徴を理解し、精神科領域の専門職との連携について理解している
- ・ 危機介入理論を理解し、危機的状況のアセスメント、危機介入技術について理解している

3. 遺伝医療と倫理

- ・ 生命倫理学の歴史、インフォームドコンセント、先端医療・生殖医療の現場における生命倫理的諸問題を理解している
 - ・ 遺伝医療に関する国内外の規制等を理解している
 - ・ 遺伝医療特有の倫理問題を理解している

4. 遺伝医療と社会

- ・ 社会福祉の歴史、社会保障、公的扶助、児童・母子福祉、障害者福祉、老人福祉、地域福祉、医療福祉など社会福祉の基礎を理解している
 - ・ 社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の基礎を理解している
 - ・ 保健医療福祉関係法規を理解している

II. 遺伝カウンセリングの実践技術の目標

- 1) クライアントとの人間関係を築くことができる

- 2) クライアントの問題事・心配事を明確化できる
- 3) クライアントの持つ遺伝学的背景をアセスメントできる
 - ・家系資料を適切な方法で収集し、家系図を書ける
 - ・必要な遺伝学的情報を得ることができる
 - ・クライアントが受けている医療について必要な情報を得ることができる
 - ・遺伝問題の有無を判断することができる
 - ・再発危険率の推定ができる
 - ・アセスメントの結果を科学的に記録できる
- 4) 遺伝問題から生じる心理・社会的問題を支援できる
 - ・心理・社会的問題を明確化できる
 - ・クライアントの問題認知状況をアセスメントできる
 - ・クライアントのコーピングをアセスメントし、適切に介入できる
 - ・グリーフカウンセリング、危機介入ができる
 - ・カウンセリングの限界を理解し、他の専門職と連携する時期について判断できる
- 5) クライアントの課題・問題の明確化・意思決定に必要な情報を提供できる
 - ・人類の遺伝学的荷重とクライアント自身が抱える遺伝学的リスクをわかりやすく説明できる
 - ・検査・診断・治療・生活に関連した情報を提供できる
 - ・クライアントが活用できる専門職・機関に関する情報を提供できる
 - ・クライアントが活用できる社会資源に関する情報を提供できる
 - ・クライアントの理解力に応じた方法で必要な情報に関して説明できる
- 6) クライアントの意思決定を支持し、支援する
 - ・専門職・機関と連携をとることができる
 - ・家族ダイナミクスを支援できる
 - ・サポートグループへの紹介ができる
 - ・個々の事例について適切にフォローアップを行うことができる

III 認定遺伝カウンセラー®の態度目標

- 1) 医療従事者の一員としての自覚をもって行動できる
 - ・認定遺伝カウンセラー®は医療技術を提供する立場ではないが、医療チームの一員であるとの自覚をもって行動できる
 - ・認定遺伝カウンセラー®が担当すべき業務範囲を理解し、クライアントから求められても診断類似行為や治療に関わる判断・指示を行わない。

- ・クライアントが受けている医療を理解し、主治医との人間関係を損なわないよう配慮できる

- ・臨床遺伝専門医やその他の専門職の役割を理解し、連携を重視して行動することができる

- ・最新の医療・遺伝医学に関する情報収集を行い、常に自己研鑽を怠らない

- ・遺伝カウンセリングの科学的な側面を理解し、科学的な思考ができるよう自己研鑽を怠らない

- ・カウンセリングについて科学的な記録を残し、適切な方法で管理できる

- ・守秘義務の原則を理解し、医療人として行動できる

2) 認定遺伝カウンセラー®としてクライアントを支援する立場で行動できる

- ・認定遺伝カウンセラー®の立場を理解し、常にクライアントの利益を考えて行動できる

- ・クライアントの人権を尊重し、家族や人間関係を配慮した態度で接することができる

- ・クライアントの不安に対しては常に共感的態度で接することができる

- ・クライアントの自律的決定を尊重し、非指示的態度で接することができる

- ・コミュニケーション技術や心理学的介入技術について、常に自己研鑽を怠らない

3) ELSI（倫理・法律・社会的事項）の基本的事項を理解し、社会人として公正な立場で行動できる

- ・生命の尊厳を重視する基本的態度でクライアントに接することができる

- ・法律、倫理規範、社会通念を配慮する基本的態度と倫理的に公正な態度でクライアントに接することができる

- ・現代医療や社会的対応の限界を理解し、クライアントにとって最良の選択を可能にするよう調整や支援をすることができる